

令和2年度

都立高校入試問題分析

# 英語

## 1. 総評と分析

### (1) 総評

例年とほぼ同じ難易度で同じ問題数のテストでした。ただ昨年に比べると最後の長文問題が少々長かったので早く正確に読む練習が必要な問題でした。

### (2) 分析

大問1はいつものようにリスニングで簡単な英作文まで含めて20点分あります。

大問2は資料を見ながら解くタイプの問題で全部で24点分あります。英作文のテーマが少々解りづらく難しく感じたかもしれません。

大問3も対話文で28点分あり、対話独特の表現方法を補完していく設問も例年通りです。

大問4は長文問題でやはり28点分です。これが昨年に比べると少々長い文で設問も内容把握の設問ばかりなので時間がかかったかもしれません。普段から早く正確に読む訓練が必要でした。

## 2. 問題分析

大問数	設問数	解答数
大問数 4 (前年比±0)	設問数 23 (前年比+1)	解答数 25 (英作文3文込み)

### (1) 問題量

英作文のテーマが環境にやさしいものを英語で説明する必要があるので普段から意識していないとなかなかスムーズに書けません。さらに大問4の内容把握で時間がかかるので、時間配分が難しかった。

### (2) 出題分野・出題内容

大問1 リスニングなので省略します。

大問2 1はウェブサイトの内容を読み取る問題で曜日の単語と **far** や **near** の意味が分かれば解けると思います。

2は海を守ることと花を植える以外の「植える」行為を選びます。

3はメールの内容を把握する問題で **eco-friendly** という語に気が付けば大丈夫でしょう。

4が英作文で **eco-bag** や **LED light** 等が思い浮かべられるとスムーズにいくと思います。

大問3 対話文の内容把握、又は英文を補う問題です。

大問4 内容把握の問題で基本的には前後の文から選択肢と似たような文を探せるかが解答の際のポイントになります。文法的には **what to** や5文型の **make**、**how about** の使い方、**way** を「方法」の意味で使う等が出ています。

### (3) 出題形式

英作文以外はすべて選択肢から選ぶ問題です。選択肢がないのは大問1の問題BのQ2と大問2の最後の問いのみです。ただし大問4の[問2]は記号の並び替えで完全解答になっています。

### (4) 難易度(全体)

英作文のテーマと大問4の長文が長くなった分、少々難しくなっているかもしれませんが他の問いが易いので平均点は昨年の54.4点並みもしくは少々上がると思われます。

# 数学

## 1. 総評と分析

### (1) 総評

前年度および近年と比較して出題傾向に変化は見られませんでした。まさに東京都立高校の入試問題といった感じでした。大問2の難易度は変わらず、大問3の[問2]において選択肢のパターンが増えたことにより、少しだけ平均点が下がるのではないのでしょうか。

### (2) 分析

大問1における作図も非常に優しい問題なので、完答を狙いたい。

大問2は昨年同様の高難易度であったと思います。等差数列が絡まない分、少しだけ難易度が落ちた可能性はありますが・・・

大問3の[問2]は選択肢が増えたため、感で当たる確率が下がったため難易度が上がったでしょう。[問3]は明らかに難易度が上がりました。しかし、定石通りに点Pのx座標をtとおいて解けるので、難易度は上がったが、都立竹早高校等を狙う層はぜひとも解けて欲しいところです。

大問4は、円が出題されず例年より易化したかと思えます。[問1]は、都立入試でよく使われる三角形の外角定理が使えないので、非常に簡単というわけでもありません。[問2]は  $BP = DQ$  を示すのにひと手間かかり、また、直角三角形の合同条件を使いたくなってしまうので、難易度が上がったのではないのでしょうか。

[問3]は明らかに昨年度より難易度が下がったでしょう。 $\triangle ABP \equiv \triangle EDQ$  と  $\triangle ABP \sim \triangle ERA$  に気付けば速攻で片づく問題です。来年度はさすがに円を使った問題が出題されるでしょう。

大問5は、例年通りです。昨年度は[問1]で長さを問われたが、本質的には断面図の三角形の形について考えさせる問題で非常に似ているうえ、難易度も変わりません。[問2]は2018年度の問題と非常に似ていて、過去問をきちんと学習している塾生にとっては点数が取りやすかったと思われれます。ただし難易度は変わっていません。

## 2. 問題分析

大問数	設問数	解答数
5	19	19

### (1) 問題量

例年通り。

### (2) 出題分野・出題内容

大問1 例年通り。

大問2 例年通り証明問題。幾何に関する証明が出題されました。来年度はカレンダーチックな問題に戻るか？

大問3 例年通り関数の問題。本年は1次関数が出題されたので、来年度は原点を通る2次関数が出題される可能性が高いでしょう。ただし、都立は2年連続2次関数が出題されたりするので、安易に山をはるのは避けましょう。

大問4 例年通りの平面幾何。2年連続円が出題されなかったため、さすがに来年度は円に関する平面図形が出題されるでしょう。

大問5 例年通りの立体図形。[問2]は2018年度の問題と似ていました。

### (3)出題形式

大問3の[問2]で選択肢が増えました。

### (4)難易度(全体)

大問3の[問2]において選択肢が増えたために、多少平均点が下がるのではないかと思います。

# 国語

## 1. 総評と分析

### (1) 総評

漢字の「読み」の問題、前年は【朗らか】が出たためやや難だったと思われるので、漢字全般的に今年の方が簡単だったような気がします。

大問4の[問5]の作文は今年は「自律分散的に状況に対応する組織」という内容に基づいて「理想の組織」（例えば委員会など）という話題に結び付けられるかがポイントで昨年より難しい（書きにくい）と感じました。

### (2) 分析

小説文は毎度おなじみ登場人物の心情把握を読み取る問題多数。感情表現（語句）や台詞に着目して読めば解けます。説明文も傍線部の直前（同段落）や、三つ前くらいからの形式段落をしっかりと読めば答えは書いてあるので、読解の基本を抑えていれば簡単に解ける問題です。

今年も小説文よりも説明文の方が読みやすく説きやすいと感じました。

## 2. 問題分析

大問数	設問数	解答数
大問数 5（前年比±0）	設問数 25（前年比±0）	解答数 25（前年比±0）

### (1) 問題量

問題量・問いの長さ・選択肢の長さ・文章の長さ、どれも昨年とほとんど変わりませんでした。

### (2) 出題分野・出題内容

大問3[問1] 傍線部にチクチク（擬音語）や苛立ちといった感情表現があるので同様の選択肢を選びます。（難易度：易）

大問3[問2] 直前の「楽観的」「気軽さ」といった発言者の感情を把握すれば解けます。（難易度：易）

大問3[問1][問2] 典型的な心情把握の問題、正直本文全体を読まなくても解けるかもしれない…。

大問4[問1] 傍線部と同段落の2行目、結局のところ…以下を読めばわかる。（難易度：易）

大問4[問3] つまり以下が傍線部、つまりよりも前（言い換え前）を読めばわかる。（難易度：易）

大問4[問4] この問題も直前にも答えは書かれているが第九段落～第十一段落までしっかりと読むべき問題。しかしながら内容は簡単、同じ内容を繰り返し述べています。

大問5 全体的に話者の言葉を追っていけば簡単に読み解けます。古文が苦手でも古文の設問はほとんど無い（現代仮名遣いのみ）ので現代文と思って読めば解けます。特に[問4]（本文と現代語訳の照らし合わせ）[問5]（現代仮名遣い）はとても易しかったです。

### (3) 出題形式

大問4[問2] 段落の役割を選択する問題。前年は大問4[問3]で出題された。

### (4) 難易度(全体)

全体的に前年度と変わらない。

# 理科

## 1. 総評と分析

### (1) 総評

例年通りの出題であった。

### (2) 分析

大問2〔問3〕 反射の問題 光の単元の作図が苦手な人は読み取りが難しかったかもしれません。

大問3〔問3〕 南中高度と地温の温まり方の関係の記述問題 上手く説明ができなかった人が多かったかもし  
れません。

## 2. 問題分析

大問数	設問数	解答数
大問数 6 (前年比±0)	設問数 27 (前年比+1)	解答数 34 (前年比+5)

### (1) 問題量

分量そのものはあまり多くなく、難易度も例年通りなので過去問をきちんと取り組んだ人は解答しやすかつ  
たと思います。

### (2) 出題分野・出題内容

大問1〔問1〕 有性生殖における受精後の変化の様子 用語の適切な理解がカギでした。

大問1〔問2〕 塩酸の電気分解 教科書で何度も目にした問題だったはずですが。

大問1〔問3〕 仕事率 公式を理解し正しく使っていたかで差が出る問題でした。

大問1〔問4〕 火成岩の種類と鉱物名を答えさせる問題 無色鉱物・有色鉱物の違いについて整理して対策が  
できた人は、悩まず答えられたと思います。

大問1〔問5〕 原子モデル図での問題 酸化銀を化学式で書き表すことができた人は問題なく解答できたと思  
います。

大問2〔問1〕 湿度の求め方 公式を理解できている人は解答しやすかった問題です。

大問2〔問2〕 吸熱反応 少し馴染みが薄かったかもしれません。

大問2〔問3〕 反射

大問2〔問4〕 水質のそこに生息する生物 教科書を細かく確認していた人は解答しやすかったと思いま  
す。ただし、過去にあまり出題されていない視点だったので戸惑いはあったかもしれません。

大問3 天体 問題集などでも頻繁に取り上げられている問題だったので、解答はしやすかったかと思いま  
す。

大問4 消化と吸収 消化酵素のはたらきと名称を整理して学習できていた人は、選択肢に迷うことはなか  
ったと思います。

大問5 化学変化 実験自体は教科書でも取り上げられているものでしたので、解答はしやすかったと思  
います。

大問6 電流と発熱 発熱量の求め方は苦手な人が少なくないので、少し解答しにくい問題だったかもしれ  
ません。

### (3)出題形式

理由について記述する問題が2問，グラフの作成問題が1題出題されました。その他の問題は選択問題やイオン式を書かせる問題でした。

### (4)難易度(全体)

昨年と難易度はほぼ同じだったと思います。問題文をきちんと読み，解答できれば得点が取れる問題が多かったです。

# 社会

## 1. 総評と分析

### (1) 総評

大枠での変化は見られないものの、昨年度から少しずつ、問題の傾向が変わりつつあります。完全正答（組んで○）の問題が多くなっており、細かい知識や読み取りの力が問われるようになってきている。

### (2) 分析

改元関連の出題は無かったものの、新紙幣の澁沢栄一に関連した問題が出題されるなど、時事に絡める傾向は今後も高いです。上記総評の通り、細かい知識と冷静な分析力があれば、難易度自体はそこまで高くありません。問題数は変わっていませんが、昨年度同様、「それぞれの国」に当てはまる記号を選ばせる傾向があるので、普段から、答え以外の選択肢の内容も確認しておくことが対策となります。

## 2. 問題分析

大問数	設問数	解答数
大問数 6（前年比±0）	設問数 20（前年比±0）	解答数 34（前年比△4）

### (1) 問題量

例年通りですが、地形図からの縮尺計算や、資料を読み取った上での記述など、時間をとられる問題もあるので、特に高得点を狙う人は、時間配分に気をつけましょう。特に、記述が実質3問になっているのは、平成28年以来のことです。また「分析」の通り、問題数に変化が無く、完全正答の問題が増えているため、それぞれの選択肢の判断に時間をとられる可能性があります。

### (2) 出題分野・出題内容

- 大問1〔問1〕 地形図から実際の風景を選ぶ問題。正確な地形の読み取りと想定が必要。
- 大問1〔問2〕 大仙古墳の位置。世界遺産の問題は、近年、どこかしらで出題されがちです。
- 大問1〔問3〕 国連の機関。頻度は5割。安全保障理事会は絶対におさえておくべきです。
- 大問2〔問1〕 雨温図からの問題。文章からグラフを読み取ることはできますが、地域がアメリカに偏るのは異例。
- 大問2〔問2〕 自動車についてだが、こちらあまり例を見ない国の問題。細かい知識と冷静な分析が必要。
- 大問2〔問3〕 貿易相手国と品目に関する常套問題。「日本」「中国」等のワードで判断できれば獲れる問題。
- 大問3〔問1〕 完全正答だが、「造船+鉄鋼」「リアス」「西に山脈」「シラス」で判断可能。
- 大問3〔問2〕 縮尺と地形図読み取り。ここまで選択肢があるのも珍しい。
- 大問3〔問3〕 記述問題。文章と表、双方のデータを正確に読み取れるかが鍵。
- 大問4〔問1〕 「建武=後醍醐」「国分寺=聖武」など、時代だけでなく、人物と用語も結びつけておく必要がある問題
- 大問4〔問2〕 たまに出題される文化史の問題。「慈照寺銀閣」を知らないとアウト。
- 大問4〔問3〕 こちらも有名な江戸4大改革の問題。それぞれの内容把握が必要。
- 大問4〔問4〕 歴史問題によく見られる、該当する期間に起こった出来事を選ぶ問題。今回は、他3つを明らかに違うとして切るか、「ラジオ=1925」を覚えてしまうかで正答可。
- 大問5〔問1〕 この位置の問題は、日本国憲法からの出題傾向が強い。基本事項を、あらゆる角度からおさえておけば、難易度はそこまで高くありません。

大問5〔問2〕 ここ10数年で例が無い、アメリカ大統領と絡めた問題。場合によっては、「捨て問」と割り切っても良いのでは。

大問5〔問3〕 社会保障制度に関する問題。「公的扶助」「社会福祉」「社会保険」「公衆衛生」は、その内容と別名も、しっかりおさえておきたい。

大問5〔問4〕 資料読み取り問題。落ち着いて分析できれば獲れる問題です。

大問6〔問1〕 近年、世界史にも似た並べ替えが出題傾向にあります（今回はまだ日本史の範疇であるが）。主だった出来事の年代・大まかな順番は覚えておきましょう。

大問6〔問2〕 総合問題にしてグラフの読み取りではあるが、「OPEC」と「オイルショック＝1973」を知っていれば獲れる問題です。

大問6〔問3〕 純粋な資料読み取り問題。

### (3)出題形式

ほぼ例年通り。大問1 小問集合（3問）。

大問2 世界地理（3問。ただし、選択肢判断込みで計8問）。

大問3 日本地理（3問。ただし、選択肢判断と記述で計10問）。

大問4 歴史（4問。ただし、選択肢判断込み等で計5問）。

大問5 公民（4問）。

大問6 分野総合（3問。ただし、選択肢判断込み等で計4問）。

### (4)難易度(全体)

ほぼ例年通り。簡単ではないが、難しいというほどでもない印象の問題である。と言いたいところだが、完全正答の問題が多い分、思うように点数が伸びないことが懸念されます。選択肢を全て検証しなければならないこと、縮尺計算があること、記述問題に詳細な分析が必要なことといった、時間を消費しやすい構成になっています。



---

## 令和2年度 東京都立入試問題分析

---

	<b>発行元</b>	<b>開倫塾 高校入試情報センター</b>	
<b>製作関係者 代表</b>	<b>和田 英明</b>		開倫塾東京本部教務部長

---

### 製作関係者

〈理科〉植野 成昭	墨田荒川ブロック副ブロック長	〈数学〉池内 健	尾久校校長
〈英語〉松下 欣史	千住関屋校校長	〈社会〉神山 智史	花畑校校長
〈国語〉熊澤 直志	町屋校校長		

---

印刷・製本 開倫塾 印刷・教材センター



## 開倫塾

墨田荒川・葛飾・足立ブロック

東京本部 ☎ 03-5604-5785

2020年2月